

中央ローン

教職員写真同好会 伊藤仁浩



KIBO NO NIJI きぼうの虹

発行所
北海道大学生生活協同組合
札幌市北区北8条西7丁目
教職員委員会編集
電話 011-746-6218

主な記事紹介

- 二面 シリーズ「つくる！サステイナブルキャンパス提案プロジェクト」Vol. 6
- 四面 イマ時の北大大学院生
- 六面 こころの健康を考える④
- 七面 博物館へ行こうII

第5回

北海道大学 田中 渡邊 誠
小林 嘉寛
快次

北海道大学では、とても魅力的な授業が数多く開講されています。私はこれらの授業に、映像教材を制作したり、授業内容について取材する立場で、参加することがあります。自身が学生の頃に行ったような魅力的な授業に参加できたら、視野が広がり、学生生活がもっと楽しかったらと思うままです。本稿では、私が印象に残った授業をいくつか紹介します。

1つ目は、環境科学院・南極学カリキュラム野外行動技術実習(南極学特別実習Ⅲ)です。この授業の一部では、ゴールデンウイークに手稲山にあるパラダイスヒュッテに宿泊して、ロープワークや地図の見方など、寒冷地における野外観測の知識を実践的に身に付けます。北海道という気温の低い環境だからこその行えるユニークな授業内容です。夜は、雪が残る山小屋でマットの上に寝袋を敷いて寝る。TAがつくる温かいカレーを食べる。北海道で生活を始めたばかりの大学院生にとっては、仲間をつくる良い機会ともなっています。

2つ目は、水産学部附属練習船おしよる丸での洋上実習です。函館に係留されているおしよる丸は、約100人に乗せて北極海ま

北大のフィールドを活かした授業の紹介

北海道大学
高等教育推進機構
オープンエデュケーションセンター
准教授

藤田 良治

Opinion!



の海洋生物の調査を行います。また、調査機器を海底へ向けて降ろし、海中の塩分濃度や海水温などを継続的に計測する実習も行います。乗船実習は興味深いが、船酔いするので避けたいと思われるかもしれません。しかし、2014年度に新造されたおしよる丸V世には揺れを防止する装置が付いており、船酔いしにくい構造になっ

で航海に出るたくましい船です。この船の中でも授業は行われています。おしよる丸を実際に操船したり、夜にイカを釣ったり、甲板に出てクジラの観測を行います。他にも大きな網を使って魚を獲り、数量、サイズ、種類など海域についています。以前のIV世に乗船して取材した経験がある私にとっては揺れが少ないため、物足りなさを感じます。

3つめは総合博物館のミュージアムグッズ制作に関する授業です。総合博物館は、学内だけでなく学外からも多くの方が訪れます。1階の入り口付近にはミュージアムショップが併設されており、総合博物館オリジナルグッズも販売されています。授業では、このミュージアムショップで販売するグッズの開発を行います。まず、来館者のニーズを調査し、企画、デザイン、制作、広報を行い、販売後の評価までを学びます。受講者は、1グループ3〜5名程度で複数のグループに分かれ、それぞれがグッズ開発を行います。この授業では、今までにペーパークラフトやマグネット、クリアファイルなど学生の発案によるミュージアムグッズが誕生し、現在も販売されています。

今回紹介した授業には、山や海、博物館といったフィールドを活用しているという共通性があります。教員が特徴ある教育の場で授業を行い、専門的な「知」を提供することによって、授業が実践的で魅力的になるのだと感じます。

シリーズ「つくるーサステイナブルキャンパス提案プロジェクト」Vol. 6
未来の成果の種を蒔くこと
「少しだけ」考えることの大事さ



大学院理学院修士1年
日下 葵

2016年4月から始まった本シリーズですが、今号の第6回を持ちまして最終回となります。前号では、プロジェクトの実施が北大においてどのような意味を持ったかについて、プロジェクトリーダーの大村より課題と展望が論じられました。

今号では一学生の立場から本プロジェクトを改めて振り返り、現在の学生生活と照らし合わせて、福利厚生について話し合う機会を開くことがどういう意味を持つのか考えたいと思います。

忙しくて、福利厚生どころではない

私はプロジェクト実施当時(2015年6月〜12月)まだ学部4年生でした。卒業研究と並行しながらも、他の院生のメンバーと比べれば時間に余裕があり、老朽化していく中央食堂について十分に思案をすることができ環境にありました。現在、大学院修士1年となり、間もなく大学院生として初めて最後の(予定の)進級を迎えようとしています。学生生活の中で研究が占めるウェイトがずっと重くなり、学部生と院生の忙しさの差に驚いています。これは他の院生もほぼ同じような状況ではないでしょうか。もし今の段階で「自分たちの福利厚生を考える機会を持つ」と呼びかけられても、なかなか応じることはでき

ないだろうと感じます。日々の生活に忙しくて、福利厚生を考

えるところではないのです。2015年12月に実施したワークショップでは、学生の参加者が少数だったことが大きな課題として残りました。当時は広報の不十分さが原因であったと考察しましたが、今になって考えてみると、長期的な課題(しかも、自分の在学中に実現されるかわからない)である福利厚生の優先度は多くの北大生にとってはおろか下であったとさえざるを得ません。研究を始めとする目の前の課題の方がずっと優先度が高いし、キャンパステイには限界があるからです。

「少しだけ」考えてみる場をつくる意義

普段から北大生協の組織委員会等で活動を積み、北大の福利厚生について課題を身近に感じていた私たちプロジェクトメンバーと、一般の学生の間には一定の距離が存在していたということ、今の立場になって改めて実感しました。しかし、そのような環境の中でこそ、福利厚生施設について特化して考える場を設けることにはやはり価値があるように感じます。日常に忙殺される中で、ふと「もつと広い食堂ですぐにごはんが食べたい」「友達と喋りながら作業できる広い空間がほしい」と福利

厚生に関して(本人が意図せずとも)思っても、個人ではその要望をしかるべき所に届けることは困難でしょう。現在は組合員の声カードが食堂や購買に設置されているので、声を届けるとしたらそこくらいでしょうか。そのような中で、福利厚生について生協・大学に直接声を届けることができた本プロジェクトのワークショップは、忙しい学生にとっても意義があったことかもしれません。たとえば総代会議のように、もつと気軽に手身近に参加できるような配慮が本ワークショップには不足していません。以上のことから、実は自分たちのライフスタイルに直結する福利厚生について、「少しだけ」考えてみる・提案する場をつくることは、効果的と言えると考えます。



ワークショップ「中央食堂をプロデュース」



中央食堂外観正面

中央食堂・北大キャンパスと私たちのこれから

1977年に中央食堂が建設されてから今年でちょうど40年となります。本プロジェクトでこれまでに提案してきたように、老朽化の問題は深刻です。また、40年前と比べて学生の規模もライフスタイルも変化しました。北大生協では総代会議等を通して、中央食堂への意見・要望、ひいては北大のキャンパスマスタープランについて、私たちがより良く生活していくために多くの声を募集しています。実は、自分の声を生協や大学に届ける術は身の回りに散らばっています。毎日がんばって研究や日々の活動に勤しんでいるあなた、もし自分たちの福利厚生やキャンパスプランについて何か思うことがあれば、「少しだけ」何らかの形で参加をしてください。今すぐ成果の花を咲かせんが、今一歩踏み出すことで、未来の成果の種をまくことができます。

いじわるじいさん

新年、初登りの藻岩山は晴れて穏やかだった。この山には地蔵がいる。麓から頂上まで並び、番号が付いているので行程の目安になる▼慈啓会病院前から出発。キツイ勾配が多くなり、雪を払って地蔵の番号を確認。15番。まだまだだ。ひたすら

下を見て歩く。白い道に落ちた枯れヤマアジサイがきれい。脇をトレイルランナーが走り抜けて行く。山頂近くの胸突き坂では、一歩毎ヨイショと声がかかる。やつと目の前に青空が開けた▼今回は途中で失敗した。何番あたりか、つづれ折りの登山道を避け、急斜面を登って上の道に避けた。この近道、足が雪に埋まり、体ごと滑り落ち、と散々で倍の時間がかかった▼どんな山も「一歩一歩進めば必ず頂上に辿り着ける」。登山家の故田部井淳子氏の言葉を思い返す▼下山を開始。裸木の林、枝先の冬芽、遠景の街。左右に広がる冬景色を惜しみつつ下りている時、赤い身繕いの女性が、数人に寄り添われてのろのろと下から現れた。目を吸い寄せられる。背を丸めた姿は老女のように。どんな思いがあつての登山なのだろう▼藻岩山はいい。元氣な若者から老人まで、それぞれの付き合い方が出来る。(今日子)

キャンパス放浪記 in 函館…第10回

～船旅のススメ

「えっこんな近くに●●●●が!?!」～

北海道大学水産学部OB 清水 歩

きぼうの虹読者の皆さん、初めまして。水産学部OBの清水という者です。

「キャンパス放浪記in函館」も数える所10回、愛読者の皆さんは水産キャンパス周りや、学部生に対する知識が深まったのではないのでしょうか。僕もバックナンバーを読ませていただいて懐かしく思い、また新たな発見があったりもしました。そして執筆の際ネタが被らないように苦労しました…でもあったんです！キャンパスに近く、まだテーマになっていない施設が！！

…という訳で、今回は「津軽海峡フェリー・函館フェリーターミナル」の紹介をさせていただきます。



＼ババーン／

あ、僕は一OBに過ぎず、フェリー会社の人ではないです。ホントですよ？

1. こんな時にフェリーが便利！

・ケース1…2年に進級し、水産学部になったT君。休みを利用して函館生活の下見に来ました。部活でお世話になった先輩の所に泊めてもらっています。

「実家の近くでさあ、ねぶた祭りやっただけけど…見てかない?」「あ、いいっすね!」

→フェリーであれば先輩もしくはT君の車を載せられるので、現地で公共交通機関を乗り継ぐことなくそのまま観光ができます。便利！

・ケース2…就活中の水産学部生Mさん、うっかり函館から東京までの予約を忘れていました！

「あっそうだ、東京で用事があるんだっ!」

→空席状況によりますが、高速バスとのセット切符を予約、夕方フェリーに乗り、翌日朝に東京着なんて芸当も可能です。セーフ！

・ケース3…北大水産学部志望の高校生Nさん、オープンキャンパスに参加したいのですが…

「うわっ…私の交通費高すぎ…?」

→もともとリーズナブルなお値段ですし、加えて他の交通機関に比べ、観光シーズンの価格変動が小さいです。嬉しい！

2. フェリーターミナルの場所は？

さて、そんな便利なフェリーに乗るにはどこに行けば良いのでしょうか？…なんと水産キャンパスから約600m、他のどの交通機関よりも近いのです。

通常の旅行パックで予約するとキャンパスから遠く離れたホテルを指定される事が多いのですが、フェリーで函館着&キャンパス近くのホテルに宿泊ならば、函館駅前で途方に暮れるという事態を回避できます。これにはケース3のNさんもニッコリ。※僕はキャンパス近くのホテル関係者でもないです。



この原稿の労力の大半は地図の手描きに持って行かれました…トホホ

3. 船旅の魅力とは？

唐突な自分語りですが僕は大学時代、様々な交通機関を利用して帰省や遠征をしていました（ヒッチハイクはし損ねたなあ…）。その中で比べてみて船旅の魅力を考えてみると、まず挙げられるのは「船内でできる事の多さ」でした。フリースペースに大きな机があるので、飲食はもちろん、ちょっとした作業もできます。トランプゲームに興じている外国の方もいました。また、疲れたらシャワーを浴びて船室に寝転がる事もできます。そして何よりの魅力は「対岸の景色」。晴れている日に船外に出て、景色を眺めていると歌じゃないですが「はるばる来たぜ!」って気分になるのです。

4. 最後に

…とここまでひたすら津軽海峡フェリー・函館フェリーターミナルの紹介（宣伝?）をしてきましたが、この記事で（特に大学生の）皆さんにお伝えしたい事は、「いつもと違う旅路も良いものですよ。時間のある間に色々試してみてください」という事です。それでは、素敵な旅を！



早く記事掲載許可を下された津軽海峡フェリー様、ありがとうございます。

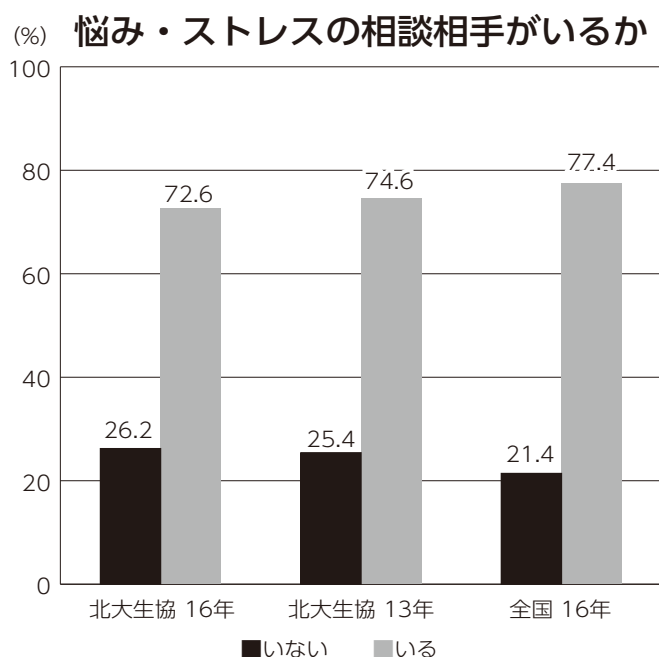
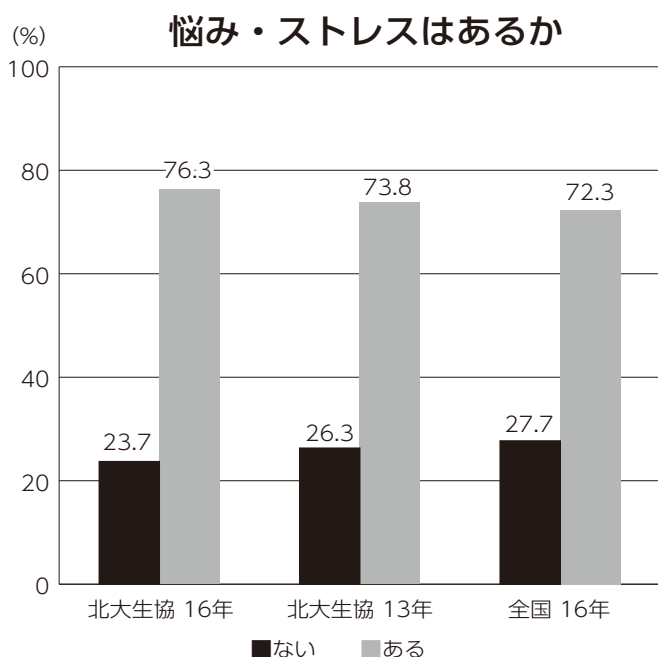
Webアドレス…<http://www.tsugarukaikyoo.co.jp>

また、写真は僕にこの冊子を紹介して下さったFさんに撮って頂きました。ありがとうございます！

イマ時の北大大学院生

～悩みをかかえる大学院生～

例年、10月に実施しています学生生活実態調査(全国大学生生活協同組合連合会 詳しくは<http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html> 参照)を元に報告しておりますが、2016年は3年に1回実施される、院生生活実態調査(以下「院調」)の年でしたので、今回は院調を元に報告します。



アンケートの回答者数は、215名でした。前回2013年に実施した際の回答者数が160名でしたので、前回と比較して55名ほど回答者が増えています。

【ストレス生活を送る大学院生】

今回、特に注目したのが「悩み・ストレスはあるか」「悩み・ストレスについて相談相手がいるか」という項目です。

「悩み・ストレスはある」と回答した方が76.3%で、2013年と比較して2.5%上昇しており、「ない」と回答した方は逆に2.6%減少しています。

「ある」と回答した方のうち、88%の方が他大学から進学された方ということや、男性(73.3%)に対し、女性は82.6%と多く、女性で他大学から進学された方は、北大の学部から北大の大学院に進学された方より、多くの悩み・ストレスを抱えていることがわかります。

「悩み・ストレスの原因」としては、文系で「生活費や授業料などお金に関すること」が16.2%、理系で「研究活動」が23.2%でした。やはり、大学院生となると「研究活動」が一番の悩みのようです。また、「心身の不調・病気など健康に関すること」という回答もあり、健康に関して、少なからず悩んでいる方もいらっしゃいます。

心配なのは、「悩み・ストレスについて相談相手がいるか」という問いに対し、「いる」と回答した方の割合が、全国平均(77.4%)に対し72.6%とかなり低いこと、「いない」と回答した方が、全国平均(21.4%)に対し26.2%と、こちらは高くなっていることです。研究で悩んでも、中々周囲に相談できない実態が浮かび上がってきました。

一方で、「相談相手がない」と回答した方でも、「相談相手がほしくない」と回答した方が「ほしい」と回答した方より上回っていました。「悩み・ストレス」は自分で解消・解決するということでしょうか？

生活をしていく上で、悩み・ストレスはつきものです。特に大学院生になると研究活動や日々の生活に追われ、余計に悩みやストレスを抱えやすいのかもしれない。

当生協でも、ウェルカムパーティーやジンギスカンパーティーなどを通して、院生さんどうしの交流を図り、少しでも悩みやストレスの解消・解決に努めたいと思います。

北大院生の読書時間

読書離れが叫ばれている昨今、実際の北大院生の読書時間はどうなっているのでしょうか？先に実施した「2016 院生生活実態調査」では、1日の読書時間が「0～30分」と回答の方が67%いました（下記グラフ参照）。グラフにはありませんが、文系・理系別に見ると、「0分～30分」と回答した方が文系で21.6%、理系では79.5%いました。文系の1日の平均読書時間は、100分、理系は27.7分という結果になりました。

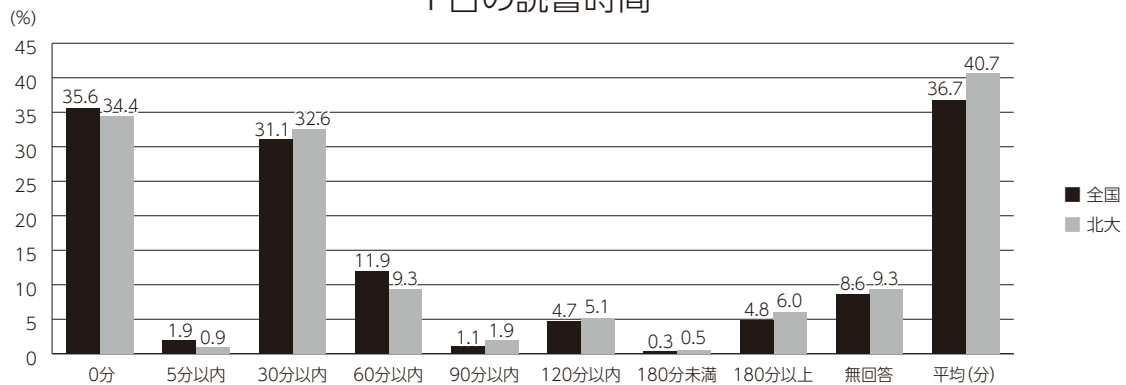
また、別の調査項目で「『読書』だと思うもの」について

は（複数回答）、「趣味や関心のための書籍」が87.4%でトップ、次いで「教科書や参考書」49.3%という結果でした。

読書離れが進んでいるといわれている中、「趣味や関心のための書籍」はちゃんと読んでいるようですね。

北大生協院生委員会でも、「ほんでないかい2016」を発行しました。理系・文系の院生さんが、それぞれ書評やおすすめ本を書いておられます。こちらも、読書をする一助になれば幸いです。「ほんでないかい2016」の詳細は、本誌8ページの「院生委員会報告」をご覧ください。

1日の読書時間



生協でのお買物のお支払いを口座引落としにてご利用の皆様へ — 今年のお支払いスケジュールをお知らせいたします —

平素は格別のお引立てに預り厚く御礼申し上げます。

お支払いにつきまして、ご指定の預金口座から振替させていただきますので、お手数でも口座引き落としの前日までに預金口座にご入金下さるようお願い申し上げます。

なお、毎月25日締で請求させていただいておりますが、12月はお正月休みの関係上誠に勝手ながら12月20日で締めさせていただきます。

それにとまなましまして、12月21日以降のご利用代金につきましては1月分の請求（2月20日引落とし）とさせていただきますので何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後とも北大生協をご利用くださいますようお願い申し上げます。

2017年1月

北海道大学生協同組合 経理課
電話 011-726-9149 学内内線 2978

2017年のスケジュール

購入日	口座引き落とし日
2016年12/21 ~ 2017年1/25	2017年 2/20
2017年 1/26 ~ 2/24	3/21
2/25 ~ 3/24	4/20
3/25 ~ 4/20	5/22
4/21 ~ 5/25	6/20
5/26 ~ 6/23	7/20
6/24 ~ 7/25	8/21
7/26 ~ 8/25	9/20
8/26 ~ 9/25	10/20
9/26 ~ 10/25	11/20
10/26 ~ 11/24	12/20
11/25 ~ 12/20	2018年 1/22

手当て引きの引き落とし

購入日	口座引き落とし日
2016年 11/16 ~ 2017年6/15	2017年 7/20
2017年 6/16 ~ 2017年11/15	2017年 12/20

心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

渡邊 誠



本や文献を読む、これは大学で学ぶ人間にとって、立場のいかんにかかわらず、日常的な営みと言っているでしょう。幼少の頃から書物に親しみ、本を自然にたくさん読めるという方もいらっしゃるでしょう。私は、本は好きなのですが、十代の頃、さほど読まなかった時期があるせいか、そんなにさらさらとは読めないという自覚があります。何とも残念なことです。そこで、せめて読んだ本については多くを吸収したいと思い、二十代の頃から、読んだ本すべてについて感想を書くということを始め、現在に至っています。

ある時、ウニカ・チュルンという女性詩人の『暗い春』という自伝的な小説を読みました。統合失調症を患った時の手記とともに、精神病理学関連の本として、翻訳されていたものです。一読、よくわからないけれど、しかし何か感じるものがありました。感じたことを綴っているうちに気がつきました。この物語には、少女の秘めやかなひそひそ笑いの感覚がある、そしてその底に、悲しい悲しい感じが、サーッと通っている…。そう言葉になった時、非常に腑に落ちるものがあり、同時になにか、発見したといった感覚がありました。

書物が私たちに伝えるものは、純粹に言葉そのものだけではなく、文体、言葉の響き、文章のリズム、といったものにより表現されるものが含まれているでしょう。行間を読む、という言葉がある所以です。学術専門書の場合であっても、私の専門とする臨床心理学は関与する要因が極めて多いから特にそうなのでしょう。書物から私たちが受け取るものは、思いの外幅が広く、奥も深い、そして、私たちはそのすべてを容易に自覚できるわけではない。私はそう思います。

ストレスを強く感じている時、私はこう思う、といったことが、講義のレポートに書かれていることがあります。皆さんいろいろで



すが、ともかく思いを、感じていることを誰に見せるでもなく書くのだ、という人が意外に多いようです。ストレスが強い時、言葉に表現するとすれば、一般的には話す、つまり音声言語にするという場合が多いでしょう。言葉にするのは感情圧を下げ、コントロールしやすくなります。話す相手がいるということ自体も、多くの場合プラスになりますよね。しかし、言葉にするというには、それらとはまた別の作用もあり得て、「ああ、そうだったんだ!」という、何か発見的な感覚は、その一つではないかと思えます。これは心理カウンセリングの中で、それまで気づかなかった自分の何かに気づくという「洞察」と、よく似ていると思えます。

そしてこの「洞察」が起ると、苦しみが軽減されるんですね。これは日常生活の中では、むしろ、書くというここの中で、起こりやすいのかもしれない。

ところで、読んだ本の感想を書く習慣を続けているうちに、どうやら私はどこかさびしくなってきたもののようです。本を読んで感想を書くというレポート課題を出すことに、本を読んで感じ考えたことを共有したいという自分自身の隠れた動機が潜んでいることに気がつきました。かつてのロシアでは、読書は夕食後に誰かが音読して、それを家族で聴くという形だったといわれています。北大の学生だったころ、今は亡き師が、大学には図書館と、読んだ本について話す友人がいればよい、教師はいても、まあ邪魔にはならない(?!)、と語っていたのですが、そこには、本を読んだのかもしれないとは、最近になって思い至ったことです。

学生委員会企画 『健康チェック』

「自分の体調確認と生活の見直し」のきっかけに

学生委員会の共済活動には、共済のことを伝えるだけでなく、組合員の方がケガや病気をしないように呼びかけをする活動もあります。今回は、冬ということで寒くなり体調を崩す人が多く、また年末年始で飲み会が増えアルコールを飲むことも増えてくる時期ということで、組合員の方に自身の体調を確認し、生活を見直してもらうきっかけとなるよう、健康チェック企画を12月13日(火) 15日(木) 11時30分～13時30分に行いました。

健康チェック企画では、血圧・体組成測定のほか、ストレスチェックやアルコールパッチテスト、泥酔体験なども行いました。また、この測定結果がどのようなものなのか、冬場に何に気を付けるべきかが書かれた冊子も作成し、配布しました。3日間で103名の方に参加していただきました。測定や体験、冊子を通して、自身の体調や生活を見直してもらおうきっかけになったかと思えます。これからも組合員の方がケガや病気をしないように予防呼びかけを中心に様々な活動を行っていきます。



博物館へ 行こうII

第5回

北海道大学総合博物館 企画展
「北大古生物学の巨人たち」

北大総合博物館 資料部研究員 **田中嘉寛**
准教授 **小林次次**



1933年、樺太における北大の発掘

北大博物館は1月31日から企画展「北大古生物学の巨人たち」を開催します。ここではその展示の見どころを紹介し、展示のメインテーマとして、北大古生物講座の初代、長尾巧教授から、大石三郎教授（写真1）、早坂一郎教授、湊正雄教授を経て現代、活躍しておられる加藤誠名誉教授まで、5人の教授をご紹介します。北大の古生物学の歴史は戦前の帝国大学時代まで遡ります。長く学術界をリードしてきた。偉大な功績を誇る教授方、それぞれの専門や業績だけでなく、人となりについて、インタビューや卒業生



写真1 野外調査での一葉。
中央右、初代長尾教授。右、第二代大石教授。

たちの文集などを丹念に読み、エピソードを集めました。教授たちが学生に対して与えたアドバイスや、研究者としての生き方など、時代が違っても、学問に対する姿勢は現代の私たちに

何か伝えてくれるかもしれません。どのような生活を送っていたのかなど、展示パネルを読んでいくと、会ったことがない教授たちの人となりを想像できるかもしれません。まさに、顔が見える展示になりました。そして巨人たちの後を追う、現代の取り組みについてもご紹介いたします。古生物学教室を卒業、あるいは在学している若者たちの研究や野外調査です。北大博物館は歴史を引き継ぐだけでなく、とりまじめ記録を残し、そして新しい研究成果を挙げ続けています。

巨人たちから受け継がれた標本や資料を公開

北大はその地理的な関係から、戦前の樺太研究が盛んに行われていました。樺太からは恐竜ニッポノサウルスやスモスチルスという絶滅した水生哺乳類は長尾、大石教授らによって発見されています。また、サンゴや化石をスライスした薄片など、早坂、湊、加藤教授らによって研究された化石も多く展示します（写真2）。

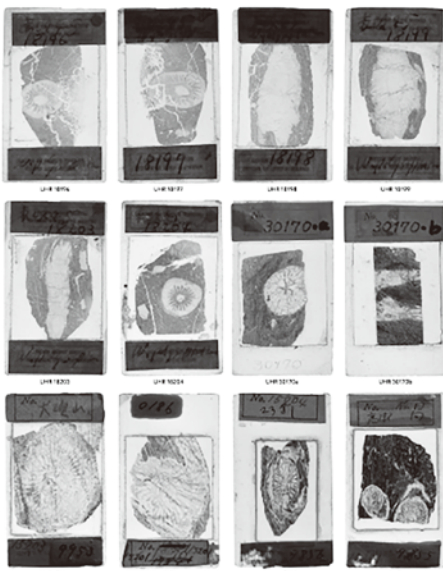


写真2 第四代湊教授が研究したサンゴ化石の薄片標本。



企画展ポスター

企画展「北大古生物学の巨人たち」

会 期：2017年1月31日（火）～4月2日（日）

会 場：北海道大学総合博物館 1階企画展示室

開館時間：10：00～17：00

休 館 日：月曜日（祝日の場合は翌日休館）
2月25日（土）・3月12日（日）

入場無料

展示解説書の販売あり

や、発掘の動画を見ると、化石たちの存在感が増して感じるの、不思議な事実です。

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

北大生協組織委員会報告

学生委員会

店舗活動 組声分析会

生協店舗への意見を届ける、組合員の声カードを集約し、そこから組合員の想いを考え、店舗や活動に活かしていくことを目的とした組声分析会を行いました。今まで、組合員の声カードは各店舗で確認返答するのみでしたが、今回、集めて確認してみました。さまざまな意見を見てみることで、新たな発見や組合員の方が求めることなどが少し見えてきましたので、これからの活動に活かしていきたいと思えます。

受験生歓迎活動

北大2次受験に合わせ、受験生の不安解消を目的に受験生歓迎企画を行います。今年も、毎年好評の「北大生と話そう」を河合塾と協力し、河合塾札幌校でも行うなど、より受験生が参加しやすい企画になるように活動していきます。ほかにも、受験生応援冊子「いな蔵」、北大構内の「道案内」などの企画も予定しています。受験生歓迎活動当日は、学生委員だけでなく、多くの北大生にも当日スタッフとして協力してもらいながら活動します。

学生委員会公式HP

<http://hokudai.web.fc2.com/>

学生委員会公式Twitter

@HU_COOP_GI_CS

学生委員会連絡先

gakusei@coop.hokudai.ac.jp

院生委員会

院生組織委員会

院生による書評誌「ほんでないかい2016」が完成しました。院生のご報告させていただいておりましたが、書評と北大OB北海道テレビ放送(HTB)アナウンサーの谷口直樹氏(番組イチオシ!スポーツコーナーやFFF担当)との特別インタビュー記事を掲載しております。なお、北大北図書館では、学部1年生に学部移行する際の進路を決める手助けとして「キャリア」「生き方」といったテーマに関する図書を紹介しています。「ほんでないかい」で紹介しているいくつかの本も展示される予定です。



院生委員会連絡先

<http://www.hokudai.seikyone.jp/insei/>
Email: hokudai.insei@coop.hokudai.ac.jp
院生委員会からのイベント等の案内を受け取れるML登録を希望される方もこちらのメールアドレスにご連絡下さい。

留学生委員会

日本のお正月料理を楽しみました

初実施で大好評だった昨年参加委員から、またお願いします!と委員を受け、新メンバー候補も楽しみにしての開催でした。航空運賃割高の年末年始は帰国せず部屋で過ごす留学生が多いことから全てハラルで日本のお正月料理と鍋を用意しました。鶏唐揚げの作り方を講習希望があり、酒や味噌を使わずに簡単に料理するコツの実習では質問が飛び交う大盛り上がりでした。席について料理や素材の意味や由来を学びながら11カ国(学業の都合で2カ国欠席)12人の留学生と職員で日本のお正月と新年会を楽しみました。食後はパンフレット編集集議を行いました。



留学生パンフレット

2017年度版編集作業進行中
留学生の意見や要望の聞き取りをしながら、内容の見直しと新たな内容を組み込んだ2016年版は好評で10月にはほぼなくなりまして。今回は更に工夫を凝らすと共に40ページに増やし部数も2800部に増やします。言語は、英語・中国語・ふりがな付の日本語で、各国の留学生への伝わりやすさを目指して編集作業を進めています。

春季新入留学生歓迎・支援イベントの活動計画立案中

多くの新入留学生に楽しんで、喜んでもらえるよう頑張ります。

教職員委員会

教職員総代会議 学内7ヶ所

で8月を除く毎月1回、昼休みを利用して開催しています。生協の営業報告の後、教職員の皆様に利用者の立場から色々なご意見をうかがっています。

12月は13日、15日、1月は17日、19日に開催しました。

教職員委員会 毎月1回、18時

19時半に開催しています。総代会議で上がった組合員の声についての検討、きぼうの虹の編集・発行について討議しています。

12月は8日、1月は19日に開催しました。

「きぼうの虹」この冊子です。

教職員委員会が編集し偶数月に発行しています。

一年間にわたり連載してきたシリーズ「サステイナブルキャンパス」は関係者による執筆が今号で終了し、次号は全体的な論評を掲載する予定です。

【編集後記】

きぼうの虹368号をお届けします。

昨年末は大雪に見舞われ、交通機関も麻痺状態で特に千歳空港では苦労された方も多かったのではないかと思います。開けて一月は穏やかな日も多く、一息ついていきます。今号には「院生生活実態調査」の報告を掲載しました。院生達がどんな思いで生活を送っているかは、教職員にとっても重要な情報です。学生の視点に立つことの必要性を痛感します。